

## 国語

## 建設技術科 一般選考

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

2013年に、和食がユネスコの無形文化遺産に登録された。登録にいたったのは、自然を尊重する日本人の基本精神にのっとり、地域の自然特性に見合った食の慣習や行事を通じて家族や地域コミュニティの結びつきを強める重要な文化だからというのが主な理由だ。大変いいことだと思う。これを機に、和食と日本人の暮らしについて過去の歴史をふり返り、食の文化を育んできた日本列島の自然と人間との関わりについて多くの人々が思いをめぐらすようになってほしい。

私の専門分野である霊長類学は、人間に近い動物の生き方から人間の進化や文化を考える学問である。人間以外のサルや類人猿（ゴリラやチンパンジー）を野生の生息地で追っていると、「生きることは食べることだ」と思い知らされる。彼らの主な食べ物は自然のあちこちに「ちらばり」、季節によってその「スガタ」を変える植物だ。いつ、どこで、何を、どのよう<sup>①</sup>に食べるかが、一日の大きな関心事である。群れをつくって暮らすサルたちにとっては、それに加えて「だれと食べるか」が重要となる。いっしょに食べる相手によって、自分がどのように、どのくらい食物に手を出せるかが変わるし、相手を選ばないと、食べたいものも食べられなくなってしまうからだ。

日本列島には43万～63万年前からニホンザルがすみついてきた。人間が大陸から渡ってきたのはたかだか2万数千年前だから、彼らのほうがずっと先輩である。日本の山へ出かけてサルを観察すると、彼らがいかにうまく四季の食材を食べ分けているかわかる。新緑の春には若葉、<sup>しやくねつ</sup>灼熱の夏は果実と昆虫、実りの秋は熟した色とりどりの果実、そして冷たい冬は落ちたドングリや<sup>d</sup>ジユヒをかじって過ごす。サルに近い身体をもった人間も、これらの四季の変化に同じように反応する。もえいずる春には山菜が欲しくなるし、秋には真っ赤に熟れた柿やリンゴに目がほころぶ。サルと同じように人間も長い時間をかけて植物と共進化をとげてきた証<sup>あか</sup>しである。人間の五感<sup>あか</sup>は食を通じて自然の変化を的確に感知するようにつくられてきたのだ。

② 人間にはサルと違うところが二つある。まず、人間は食材を調理して食べるという点だ。植物は虫や動物に食べられないように、硬い繊維や<sup>\*①</sup>二次代謝物で防御している。それを水にさらしたり、火を加えたりして食べやすくする方法を人間は発達させた。さらに人間は川や海にすむ貝や魚を食材に加え、野生の動植物を飼養したり<sup>1</sup>栽培したりすることによって得やすく、食べやすく、美味にする技術を手にした。人間は文化的雑食者であるともいわれる。日本人もその独特な文化によって、ニホンザルに比べると圧倒的に多様な食材を手に入れることができたのである。

もう一つの違いは、人間が食事を人と人をつなぐコミュニケーションとして利用してきたことだ。サルにとって食べることは、仲間との<sup>②</sup>あつれきを引き起こす<sup>2</sup>ゲンインになる。自然の食物の量はカギ<sup>3</sup>られているから、複数の仲間と同じ食物に手を出せばけんかになる。それを防ぐために、ニホンザルでは弱いサルが強いサルに遠慮して手を出さないルールが徹底<sup>4</sup>している。強いサルは食物を独占し、決して仲間に分けたりはしない。そのため、弱いサルは場所を移動して別の食物を探すことになる。

A、人間はできるだけ食物を仲間といっしょに食べようとする。ひとりでも食べられるのに、わざわざ食物を仲間の元へもち寄って共食するのだ。共食の萌芽<sup>5</sup>はすでにゴリラやチンパンジーに見られる。チンパンジーは時折狩猟をする。力の強いオスがサルやムササビなどを捕まえてその肉を食べるのだ。そんなとき、獲物を捕らえたオスの周りには他のオスやメスたちが群がってくる。めったに得られない肉の分配にあずかるうとしてやってくるのだ。肉をもったオスは力が強いので、その肉を独占して食べようとすればできないことはない。しかし、他のチンパンジーの要求は執拗<sup>6</sup>で、なかなか拒むことができず、ついには引きちぎってとるのを許してしまう。チンパンジーの世界では、どんなに体の大きなオスでも力だけでは社会的地位を保てず、仲間の支持が必要である。肉の分配はその支持を得るた



問四 ——線部①「生きることは食べることだ」と筆者が思い知るのはどうしてですか。その理由の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 食べることは、人間の家族や地域コミュニティの結びつきを強める最も大切な文化だから。
- イ サルたちの生活は、何をだれと食べるかなどの「食」が最も大きな関心事になっているから。
- ウ 人間が大陸から渡ってきた年代よりもずっと昔から、類人猿たちは生き続けてきているから。
- エ 季節がどんなに変化したとしても、サルや人間は同じ食材を食べ続ける習慣になっているから。

問五 ——線部②「人間にはサルと違うところが二つある」とあるが、それはどんな点ですか。筆者が挙げている「人間とサルの違い」の二つを、簡潔に書きなさい。

- a サルは仲間と一緒に食事をすることが多く、強いサルは弱いサルに食べ物を分配している。
- b チンパンジーのオスは、仲間からの支持を得るために弱い個体にも食べ物を分配している。
- c オランウータンやゴリラと異なって、人間だけがおとなの仲間にも食べ物を分配している。

問六 この文章で述べられていることの説明として、合っているものには「○」を、合っていないものには「×」を書きなさい。

問七 ——線部「和食」とあるが、筆者がこの文章の最初に「和食」を取り上げているのはなぜだと考えられますか。その理由を簡潔に説明しなさい。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ここは、すげーな」

伸也しんやがさっそく携帯電話とデジタルカメラで、写真を撮っていた。フィールドドライブは全国に展開するスポーツ&アウトドア用品の専門店である。駐車場は野球ができそうなくらい広いが、四角い箱のような店舗aの近くにだけ数台の自動車が停められていた。

店にはいるまえに三人を集めて、修吾しゅうごがいった。

「ここなら、たいていのものはそろっている。大切なのは、靴とバックパックと寝袋だ。あとは必要と思うものを買えばいい」

「はい、マスター、質問」

手をあげたのは豊泉ほうせんだった。修吾がうなずくと、豊泉がいった。

「同じものなら、高いのと安いのどっちを買えばいいの？」

「あらゆる商品と同じだ。高いものには、それなりの理由と価値がある。だが、この夏ひと月ばかりつかうだけなら、安いので十分」

店内は巨大な倉庫bのようで、スチールラックに色とりどりのグッズが積みあげられていた。海外のスーパーマーケットのようだ。最初に三人は、トレックキングシューズを選んだ。かなりの重さがある、くるぶしをがっしりと固定cするタイプである。アウトレット品が売られだされていたので、ぴったりのサイズが見つかった豊泉と陽介ようけいは同じブランドの靴dにした。伸也は足がちいさいので、割高な靴にぶつぶつと文句をいった。

バックパックと夏用の寝袋も修吾が選んでくれた。

厳冬期や冬山むけのダウン百パーセントの寝袋は、Aが飛びでるほどの価格だったが、ぺらぺらに薄い夏用はたいしたことはなかった。大切なのはみっただけだったはずだが、買いたいものにプえていった。銀マットに予備のタープ、アルミの皿とカップにスプーンとフォーク、スイス製の十徳ナイフ、分厚い靴下と三枚千円のTシャツ、虫除けスプレーと蚊取り線香。

修吾以外の三人はひとり一台カートを押していたが、すぐにキャンプ用具で山盛りになってしまふ。レジにならぶとき、伸也がため息をついた。

「こんなに買いこんで、全部自分で背負って歩くんだよな。これじゃ自分で自分の首を絞めるようなもんだ」

豊泉がいった。

「これ、全部で何キロくらいあるのかな」

修吾がちらりとカートに目をやった。

「……十二〜三キロ」

「げっ、そいつを背負って一日二十キロも歩くんだよね」

修吾はだまっとうなずくだけだった。陽介はきいてみた。

「マスターのバックパックは、ぼくたちのよりおおきいタイプだけど、それは何キロくらいあるんだ」

「……二十キロとすこし」

あきた様子で伸也がいった。

「あんた、やっぱり化けもんだな。もし、おれたち三人がいつしよじゃなければ、ひとりで黙って東京まで歩くつもりだったんだろ」

「……そうだ」

鶴岡の工場の三日分のキュウリdをそれぞれ支払って、四人は炎天下の駐車場にでた。

バックパックの詰めかたや背負いかたは修吾がていねいに教えてくれた。靴はしっかりと足首を締め、一番うえの穴までとおして、ひもを結ぶ。スニーカーに慣れた足には妙に重く感じた。豊泉が試しに歩いてつまずきそうになると、修吾がいった。

「……最初は歩きにくいだが、すぐに慣れる。夜には昨日より疲れずに足は楽になつていゝはずだ」

バックパックに荷物を詰め終わると、古いバッグが残った。詰め切れなかった衣類や文庫本、電化製品などがはいっている。

「……自分でもつていくなら、別に止めない。だが、無用のものはここに捨てていったほうがいい」

三人は顔を見あわせた。今までの暮らしにけりをつけるいい機会かもしれない。陽介は工場の寮生活になど未練はなかった。駐車場の脇にある分別ゴミの箱に、すべてを捨ててしまった。ヨケイeなバスタオル、パジャマ、ジャージ、なにも書いていないノート、捨てられなかった雑誌、本とCD……モえるもの、もえないもの、リサイクル可能なもの。三種類に分けてつぎつぎと捨てていく。いったん分別を始めると、それが快感で、自分のもつものをすべて捨ててしまいたくなった。なにかを捨てるのは、これほど気持ちがいいのだ。ついでに昨日までの自分も捨てられればいいのに。

豊泉はさんざん考えて、理容バサミだけ残し、

やはりすべて捨ててしまった。はいていたウエスタ  
ンブーツも、トロリートランクも、おおきなゴミ箱  
に投げこむ。伸也の荷物は、衣類よりもガラクタの  
ような電化製品が多かった。携帯の扇風機、なにが  
記録されているのかわからないハードディスク、た  
くさんのDVD、ポータブルの音楽プレイヤーはな  
ぜか四台ももっている。ネットブック一台とiPod  
ひとつを残して、伸也もすべて捨ててしまった。  
身軽になった四人は、広大な駐車場に立った。足  
元はトレッキング用の靴で固め、背中にはバックパ  
ックが身体の曲線に沿うように背負われている。新  
しい帽子はコンビニで買った麦藁帽むぎわらぼうやキャップよ  
り、遥はるかに機能的で快適快適だった。すっかり戦闘態勢  
が整った気がする。

「……みんな、今日から立派なバックパッカーだ。  
さあ、歩こう」

修吾のひと言に、残る三人は歓声をあげた。なぜ  
かはわからない。身体の奥から新しい力が湧湧きだし  
てくる。四人は一列になって、輝く入道雲のした海  
沿いの国道を歩きだした。

(石田衣良『明日のマーチ』による)

\*①トロリートランク：。車輪の付いた大きなカバン。

問一 — 線部 a く j のカタカナの部分は漢字に直し、漢字の部分は読みをひらがなで書きなさい。

問二 { 線部 ①「高い」、②「巨大な」、③「固定する」、④「靴」の品詞は何ですか。次のア～エの中から、  
それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 名詞
- イ 動詞
- ウ 形容詞
- エ 形容動詞

問三 [A] に語句を入れると、「非常におどろく」という意味になります。 [A] に入る語句を書きなさい。

問四 — 線部①「あなた、やっぱり化けもんだな」について、以下の各問に答えなさい。

(一)「あなた」とはだれのことですか。次のア～エから最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 伸也
- イ 修吾
- ウ 豊泉
- エ 陽介

(二)「化けもんだな」と思ったのはどうしてですか。その理由について説明したものととして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他の三人が荷物の重さを減らしている理由が分からずに、戸惑っていると思ったから。
- イ 他の三人の行動をまったく気にもとめないで、自分勝手に行動する人だと思ったから。
- ウ 自分のことを自分で判断できないくらいに、混乱した状態に陥っていると思ったから。
- エ 荷物の重さや道のりの長さを気にすることもなく、平然と行動する人だと思ったから。

問五 — 線部③「海沿いの国道を歩きだした」とあるが、この時の四人についての説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 修吾以外の三人は鶴岡から東京までを歩くことに不安を感じ、修吾に分かってもらおうとしている。
- イ 修吾以外の三人は鶴岡から東京まで歩くことをあきらめ、修吾に言い出す機会をうかがっている。
- ウ 修吾以外の三人も鶴岡から東京まで歩くことを決意し、マスターの修吾に頼もしさを感じている。
- エ 修吾以外の三人も鶴岡から東京まで歩くことに同意しつつも、一方的な修吾に不安を感じている。

問六 この文章中の「修吾」の発言の表現の仕方にはどのような特徴があるか。発言の表現の仕方の特徴とその効果について簡潔に説明しなさい。

三 次の文章を読んで、あとの各問に答えなさい。

今は昔、竹取の翁と言ふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり<sup>①</sup>。名をば、さぬきのみやつことなむ言ひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうて<sup>②</sup>。あたり。

問一 〓線部①「使ひけり」、②「あたり」の読み方を、現代仮名遣いで書きなさい（すべてひらがなで書くこと）。

問二 〓線部「あやしがりて」の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 残念だと嘆いて  
イ 恐ろしく感じて  
ウ 不思議に思っ  
エ 怒りにふるえて

問三 この文章に述べた①～③について、正しいものには「○」、間違っているものには「×」を書きなさい。

① 「翁」は、野山で竹をとっているいろいろな事に使っていた。  
② 「翁」は、「さぬきのみやつこ」というめずらしい竹を発見した。  
③ 竹の中の小さな人は、とてもかわいらしい様子で座っていた。

問四 この作品についての説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 作者が不詳の現存する日本で最古の物語である。  
イ 紫式部によって書かれた日本で最長の物語である。  
ウ 清少納言によって書かれた平安時代の随筆である。  
エ 兼好法師によって書かれた鎌倉時代の随筆である。

四

次の a から e のことわざの意味として適切なものを、後の ア から カ の中の文字から一つずつ選び、それぞれ記号で書きなさい。

- a 百聞は一見にしかず
- b 良薬は口に苦し
- c ネコに小判
- d 弘法こうぼうも筆の誤り
- e 急がば回れ

ア 確実な道を選んだ方が結果として早く着くということ。

イ 価値の分からないものに貴重なものを与えても無意味だということ。

ウ つらくとも耐えていればやがて報われること。

エ 人から何度も聞くより、自分で見る方がよく分かること。

オ 自分のためになる忠告は素直に受け入れにくいこと。

カ どんな達人でも失敗することがあるということ。

五

次の①から⑤の語句の対義語を、後のア から コ からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 軽率
- ② 変化
- ③ 登場
- ④ 精巧
- ⑤ 希薄

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| ア 安全 | イ 粗雑 | ウ 劣勢 | エ 不変 | オ 憎悪 |
| カ 慎重 | キ 不運 | ク 濃厚 | ケ 平等 | コ 退場 |





受験  
番号

氏名

解答例

一

問一		問二		問五		問六	問七
a	f	エ	○(例) 食材を調理して食べるということ。	a	○(例) 食事を人と人をつなぐコミュニケーションとして利用してきたこと。	a	(例) 第二段落以降で述べる「食」についての関心を引き起こすため。
いさん	さいばい	問三		×		×	
b	g	①		b		○	
散らばり	原因	イ		○		c	
c	h	②		×			
姿	限られて	ウ					
d	i	③					
樹皮	てっつい	ア					
e	j	問四					
うれた	こばむ	イ					

二

問一		問二	問四	問六
a	f	①	(二)	(例) すべて「……」で始まっていて、口数が少ない人柄である印象を与えている。
てんぼ	つかれずに	ウ	イ	
b	g	②	(二)	
積みあげ	余計	エ	エ	
c	h	③	エ	
増えて	燃える	④	問五	
d	i	ア	ウ	
給料	かいてき	問三		
e	j	目		
みょうに	わきだし			

三

問一	問三
①	①
つかいけり	○
②	②
いたり	×
問二	③
ウ	○
	問四
	ア

四

a	b	c	d	e
エ	オ	イ	カ	ア

五

①	②	③	④	⑤
カ	エ	コ	イ	ク